

福島市、納豆購入額 1 位奪還

24年全国家計調査

市は日本一奪還を記念し、市街なか交流館で「納豆消費額日本一のまちの姿」展を企画した。

8日から3月31日まで、年間購入額相当(210パック)の納豆を積み上げた「納豆バックタワー」や、納豆料理提供店を紹介するグルメマップなどを展示する。

18日からは期間限定で、市役所9階食堂の全メニューに、免疫力向上が期待される納豆菌を使用した納豆を無料で付ける。納豆製造大手のタカノフーズ(茨城県)が協力する。



「納豆バックタワー」を前に、日本一奪還を喜ぶ木幡市長(左から2人目)ら関係者

官民協力 独自記念日や新メニュー奏功

家計調査は全国52の都道府県庁所在地や政令市で行われる。福島市は2019〜22年の4年間首位だった。23年は9位に転落した。日本一奪還に向け、全国的な「納豆の日」の7月10日以外にも毎月10日を市独自の「納豆の日」と定めたり、市内の飲食店が新メニューを考案したりと、官民を挙げて取り組みを強化していった。2位の秋田市に631円差をつける圧勝だった。

福島市のおかあさん食堂は昨年、市主催の納豆料理コンテストにところどころを合わせた「ねばねば丼」を出品。佐藤幹子店長(55)は「まぜたり挟んだり、アレンジしやすい食材。おいしさと栄養価の高さをPRしていきたい」と話した。子どもの頃から毎日納豆を食べている福島明成高の志賀秀登教諭(27)は「生徒が実習で育てたネギを刻んで入れるのがこだわり。食べ応えのある大豆が好み」とし「アマチュア相撲をしているので、質のいいたんぱく質を摂取できるのも魅力」と語った。

市によると、名産地でもない福島市で納豆の消費が多い理由は不明だが、地域に根付いた食文化という。

木幡市長は「健康に役立ただけでなく、体や脳を動かすエネルギー源にもなる。市民の皆さんと『納豆のまち福島』を盛り上げていきたい」と力を込めた。

「バックタワー」やグルメ地図展示

総務省が7日発表した昨年の家計調査で、福島市の納豆の1世帯(2人以上)当たり年間購入額は7830円と、2年ぶりに全国1位に返り咲いた。市街なか交流館には早朝から木幡浩市長やスーパー、飲食店の関係者ら約20人が集まり、結果を知ると喜びを爆発させた。健康づくりに欠かせない食品。『納豆のまち福島』を盛り上げていく」と一層の団結を誓った。

▲2月8日 福島民友新聞掲

5W1Hを読み解こう

記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。(330字程度)

発表されたのはいつ？

何が発表された？

市町村はどこ？

何がおきた？

どのような取り組みをしたから？

どんな効果があるの？

あなたの家では、どのようにして納豆を食べますか？



「ジュニア窓」にようこそ

福島民友投稿のページ「窓」に送る